



いやはや、10月になりましたね。読書週間が始まる月がやってきました。では先月号の続きをご覧ください。

思い出を一文。 責任者 田島 英樹

## 『鋸坂少年 トランペット』②

少年はYさんの夢を聞いていたので、てっきり高校進学後夢に向かって進むものだと思っていた。「就職」この二文字が脳裏を巡った。「Yさんの夢はどうなるのだろう」とも自問した。

集団就職列車が停まる出水駅の一番ホームは中学を卒業したばかりの少年と彼らを見送る人々でごった返していた。鋸坂少年は、この時初めて集団就職列車を見た。Y先輩を見送るため吹奏楽部員がかけつけたのである。皆、学校から自転車に楽器を積み込み、高次田土手を抜け六月田橋を渡り、砂利道にハンドルを取られながらも出水駅に辿り着いた。駅は雑踏と化し、就職する我が子を抱きしめる親や、友人の激励の声とこれに精一杯応えようとする少年達の声にならない声で溢れていた。やがて、列車の姿が視界に入る。吹奏楽部が「蛍の光」を奏で始める。その音につられてかホームは一段と涙と惜別の情で満ちた。列車がホームに滑り込んで来た。セーラー服や学生服に身を包んだ一団がタラップに足を運び、列車に吸い込まれていく光景へと変わった。列車には先に乗り込んだ就職生の姿が多数見られた。出水駅は鹿児島県内の集団就職列車の最後の停車駅であった。列車の発車時刻が迫ってきた。鋸坂少年たちは、楽器を持つ手に一段と力を込め、全ての息吹をマスウピースにぶつけた。

鋸坂少年は後年、集団就職列車について次のように知った。

昭和三十八年（一九六三）七万八〇〇〇人、同三十九年七万六〇〇〇人、同四十年七万三〇〇〇人。これは、中学校を卒業して就職した者の概数（労働省統計）である。出水市でも卒業生総数約三九〇〇〇人のうち、就職した者は三百余人に達していた。

このころは、日本経済の高度成長期の真っ只中、資本は安価で質の良い労働力を欲していた。日本中の地方から一五歳の少年少女が都会に就職。彼らは国鉄の「集団就職列車」なる臨時列車で都会へ向かった。

集団就職列車は鹿児島県が国鉄に掛け合い実現した交通方式であった。鹿児島県の集団就職列車第一号は昭和三十一年三月三十日午前八時三十八分、鹿児島駅を発車した。列車は伊集院・川内・出水・水俣の各駅で新卒者総勢六〇一人を乗せて旅立った。この年は、八便約六四〇〇〇人を運んだ。後年、「あけぼの号」と親しまれた集団就職列車は、昭和四十九年（一九七四）までの一九年間に、約十四万五〇〇〇人を運んだ。（典拠『出水郷土誌下巻』）



列車を見送った鋸坂少年は、帰宅の途中、元町踏切に差し掛かったとき幼い子どもを見た。その瞬間、芥川龍之介の『蜜柑』の一節が重なった。

芥川の『蜜柑』は大正八年（一九一九）五月一日発行の雑誌『新潮』第三十巻第五号に「私の出遭った事」の総題で「一、蜜柑」として掲載されたものである。

曇った冬の日暮れ、横須賀発上り東京行二等室に乗車した主人公が、発車間近に日和下駄（木の台に二枚の歯をさしこんだ低い下駄。）をはいた十三、四の小娘が前の席に腰を下ろした顔を一瞥するところから始まる。小娘は油気のない銀杏返しの髪型で、ひびだらけの両ほおを赤く火照らせ、膝の上に大きな風呂敷包みを持っていた。その包みを抱いた霜焼けの手の中には、三等の赤切符（当時、一等は白、二等は青、三等は赤と、等級によって切符の色が違っていった）が大事そうに握られていた。こんな小娘に主人公は不快感を抱く。ほどなく汽車はトンネルに入り、席を移動した小娘が重いガラス戸を開けようとする。悪戦苦闘しながらもやっと開けることに成功する。その瞬間、煤（石炭を燃すと出る細かい黒い粉）がもうもうと車内に入りこみ、主人公は顔じゅう煙を浴びる羽目になった。ますます不快感が大きくなるのである。しかし、汽車は直ぐトンネルを出て、貧しい町はずれの踏切に通りがかる。踏切の近くは、見すばらしい葎屋根や瓦屋根が狭苦しく建て込んで立っている。その踏切の近くは、主人公は頬の赤い三人の男子がぎゅっとくっつきあって立っているのを見る。三人は揃って背が低く、暗くみじめたらしい景色と同じような色の着物を着ていた。三人は汽車が通るのを見ながら、一斉に手を挙げ喚声を叫ぶ。その瞬間、小娘は窓から半身を乗り出し霜焼けの手で蜜柑を五、六個子どもたちに向かって投げたのである。主人公は、瞬間に、奉公先に赴こうとしていた小娘が幾果の蜜柑を窓から投げて、見送りにきた弟たちの労に報いたことを了解した。主人公はこの光景を目の当たりにして疲労と倦怠、退屈な人生を忘れる。

鋸坂少年は還暦を過ぎた今でもその踏切を通う。時折、Y先輩の事を思い出すがあれから一度も会った事はない。



写真7-6 出水駅を出發する集団就職列車





October

10月

二十四節気 寒露(10月8日) 霜降(10月23日)

キーワード 衣替え・紅葉・収穫・秋祭り・ハロウィン

2020年

紅葉狩り・インフルエンザ予防接種



月	火	水	木	金	土	日
<b>新高尾野図書館は12月7日開館します。</b>			1 衣替え	2 望遠鏡の日	3 ドイツ統一の日	4 都市景観の日
			十五夜	豆腐の日	洗浄の日	証券投資の日
			日本酒の日	国際非暴力デー	登山の日	古書の日
			法の日		蛇笏忌 (飯田蛇笏 1962)	素十忌 (高野素十 1976)
			確定拠出年金の日			
5 世界教師デー	6 国際協力の日	7 ミステリー記念日	8 木の日	9 世界郵便の日	10 目の愛護デー	11 国際ガールズ・デー
レモンの日	国際ボランティア	盗難防止の日	骨と関節の日	トラックの日	缶詰の日	
時刻表記念日	貯金の日		国立公園制定記念日	塾の日	ふとんの日	一草忌 (種田山頭火 1940)
					冷凍めんの日	
12 豆乳の日	13 国際防災デー	14 鉄道の日	15 人形の日	16 世界食料デー	17 貧困撲滅のための国際デー	18 統計の日
	さつまいもの日	PTA結成の日	助け合いの日	ボスの日	国際デー	ドライバーの日
	引越しの日	世界標準の日	きのこの日	グリーンリボンデー	貯蓄の日	冷凍食品の日
芭蕉忌 (松尾芭蕉 1694)			世界手洗いの日		カラオケ文化の日	
19 イクメンの日	20 リサイクルの日	21 あかりの日	22 図鑑の日	23 電信電話記念日	24 国連の日	25 世界バスターデー
住育の日	新聞広告の日	国際反戦デー	パラシュートの日	化学の日	世界開発情報の日	民間航空記念日
バーゲンの日	世界骨粗鬆症デー				マーガリンの日	リクエストの日
		直哉忌 (志賀直哉 1971)	中也忌 (中原中也 1937)			
26 原子力の日	27 文字・活字文化の日	28 速記記念日	29 てぶくろの日	30 たまごかけごはんの日	31 ハロウィン	
柿の日	読書の日	ABCの日	ホームビデオ記念日	マナーの日	ガス記念日	
サーカスの日	源義忌 (角川源義 1975)			紅葉忌 (尾崎紅葉 1903)		

作家の命日・10月

- 5日 武田泰淳 1976 13日 やなせたかし 2013
- 7日 和田誠 2019 19日 連城三紀彦 2013
- 12日 三浦綾子 1999 24日 北杜夫 2011
- 13日 丸谷才一 2012 26日 小島信夫 2006



10月のできごと

- 日本で初の国勢調査を実施(1920年10月1日)
- 漫画『ピーナッツ』の連載がスタート(1950年10月2日)
- 東西ドイツ統一(1990年10月3日)
- フロイトの『夢判断』が出版される(1900年10月14日)
- チャップリンの映画『独裁者』が公開(1940年10月15日)
- 日本初のウーマン・リブのデモ(1970年10月21日)

- 黒岩涙香没後100周年(2020年10月6日)
- 野坂昭如生誕90周年(2020年10月10日)

主な文学賞 (19年度実績)

- 柴田錬三郎賞 角川源義賞
- 泉鏡花文学賞

運動・週間

- 赤い羽根共同募金運動(10月1日～21年3月31日)
- 新聞週間(10月15日～21日)
- 読書週間(10月27日～11月9日)

**10/1現在、出水市立図書館は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、お座席を半減して開館しています。又、読み聞かせ会等の行事も見合わせています。ご理解とご協力をお願いします。**

- 中央図書館 電話0996-63-2105
- 高尾野図書館 電話0996-82-5452
- 野田図書館 電話0996-84-3100

- 今月の休館日は**19日(定期)**
- " **全面休館(臨時)**
- " **14日～16日(臨時・定期)**

今月の休館日は?

メールアドレス izumilibrary@iaa.itkeeper.ne.jp <https://www.izumi-library.com>